

(AL 関連の実践)【高校/商業科】ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニングによる学び

曲田雄三 (静岡市立清水桜が丘高校)

溝上のコメントは最後にあります

対象授業

- ・ **授業**：高校 2 年 商業科「広告と販売促進」
- ・ **生徒数**：選択授業 在籍 19 名 (男子 6 人、女子 13 人)
- ・ **教材**：本時は、新学習指導要領から新設される科目「観光ビジネス」の指導目標、指導内容に基づいて指導案を作成した。

第 1 節 はじめに

本校では、平成 28 年度からアクティブラーニング型授業の推進を図るべく、各教科より 1 名を選出し「アクティブラーニング研究会」を発足し研究を進めている。私は初年度より研究メンバーとして参加し、各地で行われる研修会への参加や、校内における研究授業の実施などを通し研究を進め、授業改善を行っている。

授業実践を重ねていく中で、取り入れる頻度が増したグループワークでは、自己の考えを表現することが得意な生徒を中心とした活動になっていることが気になり、全員が主体的に参加するためのスキルを身に付けさせる必要を感じた。そこで今年度は「ファシリテーション能力の育成」に力を入れることを決めた。

具体的には、静岡大学の「ファシリテーション講座」と連携し、学生に実際のグループワークに参加してもらうなどし、生徒のファシリテーション能力を高めることを心掛けたところ、その後のグループワークでは明らかな成長が見られた(図表 1)。自己の考えを表現することはもちろんであるが、他者の考えを引き出す力を身につけることができ、グループワーク全体のレベルアップにつながったと考える。



図表 1 静大生との連携授業の様子。計 3 回実施

第 2 節 本時の目標

清水港周辺の海洋文化の拠点づくりにおける清水港周辺のブランド力の向上等を、アクティブラーニング型の授業展開で考える。地域に目を向けさせる中で、地元清水には観光資源が多く存

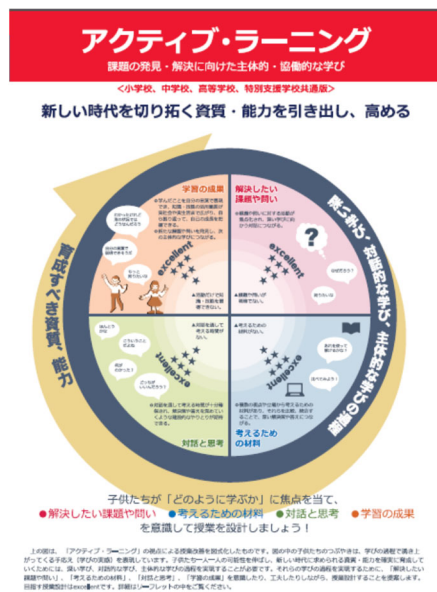
在していることを理解し、清水港周辺の海洋文化の拠点づくりへの関心ある態度を育成することを目標とした。

第3節 授業展開を考えるにあたって

アクティブラーニングにおける授業設計を考える際には、静岡県教育委員会が発行している「アクティブ・ラーニング、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」(静岡県総合教育センターホームページよりダウンロード可能)を基に授業展開を構成することを実践している(図表2)。

このリーフレットは、次期学習指導要領改訂に向けて提起された「アクティブ・ラーニング」及び「カリキュラム・マネジメント」について、静岡県総合教育センターの研究成果を学校現場に広く浸透させていくために全県内教職員に配布されたものである。

私はアクティブラーニングにおける学びの過程を実現するためには「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」を意識し工夫する中で、授業設計をしている。その際に私は、下記にある学びのデザインシートを基に授業案を考えるようにしている。本校独自の学びのデザインシートもあり、校内公開授業の際には、本校職員が積極的に活用している(図表3)。



図表2 (資料1)

1時間 商業・広告と販売促進(曲田教諭)

ICTを活用したアクティブ・ラーニング型 授業デザインシート

平成28年11月8日(火)
清水港が丘高校

アクティブ・ラーニングの型	ケースメソッド型アクティブ・ラーニング	授業者	曲田 誠三
教科・科目	商業・広告と販売促進	設定時数	5時間 3/5時
単元	店舗の立地	授業集団	2年商業科 選択科目(30名)
本時全体の目標	地域の消費者にとってふさわしい店舗立地を明確にし、実際に敷居品、買付品、専門品を扱う店舗に分かれて出店戦略を議論していく中で、商品の種類によって店舗立地、出店形態等の条件が変化していくことを理解していく。		
学習内容	本時の生徒の特性を踏まえた各学習内容における主な目標「身につけたい力・姿勢」	左記の力・姿勢の「学力の3要素」への分類	教師による発問・働きかけの内容 ICTの利用
各店舗の立地戦略の具現化、明確化をする。(ブレインストーミング)(KJ法)	1 主体性 2 知識・技能	ブレインストーミングを用いてそれぞれの店舗においてのふさわしい立地条件について意見を考える。	個人の考えを5分間時間をとりながら考えさせる。 ブレインストーミングの注意 1 買付量 2 自由奔放 3 発問厳密 4 選別と結合
他の意見をまとめる力	1 協働性 3 思考力	KJ法を用い、出された意見を基に、理想の立地とはどう在るべきなのかをまとめていく。	グルーピングがスムーズにすすむことができないグループにはアドバイスを入れていく。
意見をまとめるが自分なりの考えを持つことができる力	3 判断力・表現力	まとめられたものを基に「理想の立地条件」に対しての自分なりの考えを持たせる。	まとめられた意見を基に、多数な意見が大切であることを伝える。
仲間と協力して問題を解決する力	1 主体性・人間性 2 知識・技能 3 思考力・表現力	その店舗を出店するためにはどのような地域に出店すべきなのかを議論する。(出店戦略)	タブレットを用意しておき、よめいく中で必要があれば積極的に使用する。(出店戦略) ・静岡市ホームページグループアース
立地戦略を考慮しながら出店計画を立てる。	3 思考力・判断力・表現力	立地戦略の内容を基に「出店の必要性」を検討し、どこに立地し、どのような店舗にすべきかを議論し、まとめる。	結論の整理となるものが示せるように促す。
問題解決能力	3 思考力・判断力・表現力	立地戦略の内容を基に「出店の必要性」を検討し、どこに立地し、どのような店舗にすべきかを議論し、まとめる。	これまでの授業のつながりが理解できていない生徒への声かけ。
「学力の3要素」についての説明			
1・・・どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性等)			
2・・・何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)			
3・・・知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)			

図表3 (資料2) 大きく

(静岡市立清水桜が丘高等学校、曲田雄三)

学びのデザインシート (授業前)

アクティブラーニングを中心とした主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想
【商業科/広告と販売促進】

1. 対象
2年選択の授業である。授業に対して前向きで主体的に取り組む生徒が多い。実習が多い科目のため、自分の意見を求められ発言することが多いが、積極的に取り組むことができる。
本科目では、グループワークを円滑にするためのファシリテーション能力の育成に力を入れており、今学期は大学で「ファシリテーション」の講座を受講した学生と高大連携授業を実施し、グループワークの質の向上を目指している。その授業から、グループワークを行う際に、「相手の意見に耳を傾けること、笑顔で接すること、大きな声で話すこと」の大切さを学び、グループワークの約束事として授業を行っている。会議の中心となるファシリテーターにも積極的に立候補するなど、生徒の主体性がみられるため、その前向きな取り組みを引き出しながらアクティブラーニングを軸とした授業を展開していきたい。

2. 単元名 「地域の活性化」

3. 単元目標 観光振興とまちづくりとの関係など観光ビジネスの展開と効果に関する知識などを基盤として、消費者の動向、観光による地域の活性化に関する具体的な事例など科学的な根拠に基づいて、地域活性化に向けた観光ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになることを狙いとす。

4. 本時の目標 清水港周辺の海洋文化の拠点づくりにおける清水のブランド力の向上等を考えていく中で、地域には観光資源の多く存在していることを理解し、地元清水における清水港周辺の海洋文化の拠点づくりへの関心ある態度を育成する。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

- ・みんなにアピールしたい「静岡市」の魅力ってなんだろう
- ・日本中から訪れてみたくなる「清水港周辺」のまちづくりを考えてみよう。

考えるための材料

【地図】	【資料】	【ノート】
清水区内（清水港周辺）の白地図 ・幹線道路の記入 ・大規模店舗立地法に関わる大きな施設のチェック ・公共施設や駅のチェック	・清水区内の消費者等のデータ ・静岡市第3次総合計画 ・広報静岡（静岡市5大構想）	ここまでの講演、授業で学んだことをまとめた資料

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

<対話>
ブレインストーミングとKJ法

<思考>
根拠に基づいて清水港周辺の観光振興策について考える。

図表4（大きく）

第4節 授業の工夫

アクティブラーニングを中心に考えた際には以下のことに注意をして授業構成している。

(1) 話し合いをする際の距離感、雰囲気

グループワークを円滑にするための適切な人数があるように、話し合いを促進する適切な相手との距離感が存在すると考えている。そのため、座ったままではなく、立ってグループワークを行うよう指導をしている。繰り返し行ううち、生徒が自主的に立ってグループワークを進める姿が授業中に見られる（図表5）。

(AL 関連の実践) ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニング (2019年1月23日掲載 更新なし)



図表 5

(2) 考えるための材料をしっかり用意する

グループワークの質を上げるには、生徒に「考えるための材料」をしっかり提供しなくてはならない。「考えるための材料」を提供していないグループワークは、漠然としたものとなり、学習根拠に基づいた「深い学び」にならない。

(3) タイムマネジメント

グループワークをしていると、つい時間を延長したくなりがちである。考えを絞り出すためにも時間を「〇分」と決めたら、その時間の中で答えを導き出す習慣をつける必要がある。本校では、時間を大きく表示することを実践している (図表 6)。



図表 6

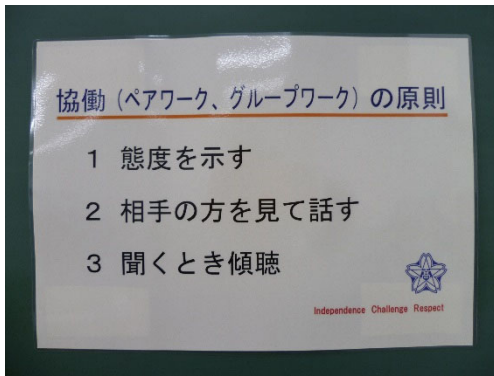


図表 7 他の先生方の授業でも多く見られる光景

(4) 約束事を決めて、しっかり守らせる

本校では、1年生の各ホームルームに「協働 (ペアワーク、グループワーク) の原則」を掲示し、学校全体で原則を共有している (図表 8)。

さらに本授業では、高大連携授業を行った際に生徒たちが「グループワークが活性化するためには」という問いに対して「相手の意見に耳を傾けること、笑顔で接すること、大きな声で接すること」という答えを導き出し、それをこの授業の約束事としてグループワークの際に大切にしている。



図表 8 教室掲示されている



図表 9 1年生の集団宿泊訓練の様子。「協働」について学び、日々のアクティブラーニングにつなげる

第5節 授業の展開

本時まで、「考えるための材料」として静岡市第3次総合計画及び清水区観光資源についての資料のまとめ、静岡市観光企画課による講演等3時間の学習を終了した。4時間目の本時は班ごとまとめを行い、次回5時間目は各班の発表・まとめを行う。

(1) 導入 (5分)

多くの教師が参観予定だったため、生徒の緊張をほぐそうと、ウォーミングアップを取り入れた。「曲田 (私) のお疲れさま会を今度の日曜日に企画しよう」という題で、相手のアイデアに「いいねー」で返して、新たな提案をしていくというペアワークを行った。

A「今度の日曜日に野球部員を呼んでやろうよ」

B「いいねー。それじゃ野球部員に出し物をしてもらおうよ」

A「いいねー。その出し物は、劇をやろうよ」

B「いいねー。それじゃあ……」

というように、3分間続けた。お互いのアイデアを肯定し続け話が進むため、意見を言い合う授業への意欲を高めることが期待できる。

本時の授業は、話し合いがしやすい雰囲気を作るよう、広いメディアセンター (図書室) を使用し、グループワークの際には音楽をかけて行った (図表10)。

(AL 関連の実践) ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニング (2019年1月23日掲載 更新なし)



図表 10 ウォームアップの様子

(2) 展開 1 (18分)

- ・ 解決したい課題や問い 1

「他県の人にアピールしたい「静岡市」の魅力ってなんだろう」

グループ内でファシリテーターを選び、限られた時間内を有効に使う方法を考え、KJ法、ブレインストーミングの手法を用いてまとめた(図表 11)。時間の3分の2経過後に、「見回りタイム」を設定し、各グループのまとめを共有した。生徒は自発的にふせんを持ちながら回っている様子が見られた(図表 12)。



図表 11



図表 12 見回りタイムでは生徒がふせんを持ってアイデアをもらおう

(3) 展開 2 (20分)

- ・ 解決したい課題や問い 2

「日本中から訪れてみたくなる「清水港周辺」のまちづくりを考えてみよう」

展開 1 の内容を意識して、グループとしての結論をまとめる学びに入った。最後に一班だけ発

(AL 関連の実践) ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニング (2019年1月23日掲載 更新なし)

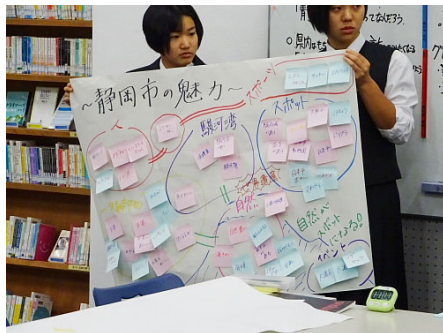
表があることを伝え、生徒の意欲関心を高めた。(図表13)



図表 1 3 時間内に発表準備まで進める

(4) まとめ (7分)

抽選した一班に質問時間も設けて発表させた。発表後、振り返りシートを記入し自己の考えをまとめさせる、という予定であったが、当日は時間が足りなくなってしまった。そのため数名の生徒を指名し、振り返りを全体でおこなった。この時間で感じたことを内化→外化→内化のサイクルの中で、最後の内化をし、自分自身が共有する外化の作業を通して感じたこと、考えたこと、することを振り返ることで授業の総括とした。(図表14)



図表 1 4 プレゼン者は生徒からの質問にも答える

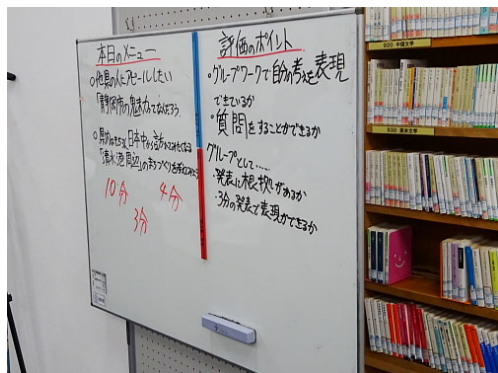
第6節 今後の課題

指導と評価の一体化が求められる中で、グループワークをどのように「評価」するか、ということが大きな課題であると考えている。本時では評価のポイントをホワイトボードに記入し、明確に生徒に示すことを心がけた(図表15)。評価の方法については今後ルーブリックを設定する

(AL 関連の実践) ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニング (2019年1月23日掲載 更新なし)

など、工夫したい。

また、生徒のグループワークスキルをより高めていくことも今後の課題である。アクティブラーニングを「深い学び」につなげるために、生徒のファシリテーション能力を向上させるプログラムを継続的に考えていく必要がある。



図表 1 5

第7節 最後に

アクティブラーニング研究会で勉強し、様々な貴重な経験をさせていただいていると思う。アクティブラーニングを中心に考えた授業実践を行っているうちに、HRや部活動での生徒への接し方、運営方法、指導方法が変化してきていることを感じている。生徒の主体性、協働する力を育成するうえでも今後も更に研修を積んでいきたい。

溝上コメント

- ・ 見学した感想を一言で言って、圧巻であった。
- ・ 生徒に質的に有意義なグループワークを促すための相当細かなデザインがなされていた。

✓開始時とウォームアップ (図表 1 0)

開始時に、生徒が教師に挨拶をする場面があったが、まずこの時点で「(挨拶に) 元気がない」と言ってやり直しをさせた。参観者が後ろに多く立っており、生徒はやや緊張していたかもしれない。生徒の表情や気分をよく捉えていると感じた場面であった。図表 1 0 は、グループワークを始める前のウォームアップ場面であるが、ここでも元気よく話すことを促していた。

✓本日のメニューと評価のポイントの提示 (図表 1 5)

授業時間中ずっと見える形で示されていた。評価は、学習内容に関するものが1つでもあればもっと良かったと思う。

✓立ってグループワーク (図表 5、1 2、1 3)

曲田教諭が報告しているとおおり、これは指導の結果である。グループワークをおこなうときの適切な相手との距離感をつくるためと教諭は説明している。また一般的には、4人グループで座ってワークをすると、向かいの2人が逆向きで書かれたものを見て意欲が落ちていくということが起きやすいが、生徒たちは立ってワークをおこなっているので、見にくいときには見やすい場所へ移動するというもおこなっていた。

(AL 関連の実践) ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニング (2019 年 1 月 23 日掲載 更新なし)

✓生徒同士で学ぶ (図表 1 2)

グループワークを一通り終えた後、他班のシートを見に行き、他班のアイデアをもらうという取り組みがあった。生徒同士での学び合いがデザイン化されていた。

✓タイムマネジメント (図表 6)

このウェブサイトでは何度も紹介してきた技法である。

✓グループワークだけでなく、ワークの成果を発表し質疑を受ける (図表 1 4)

・ 生徒の身体化 (*) の確立

たとえ授業デザインがすばらしいものであっても、一回の授業だけで生徒が教師の期待するように行動することはなかなか起こらない。

✓教室掲示 (図表 8)、集団宿泊訓練 (図表 9) などのさまざまな他の行事とも連動させて、まさにカリキュラムマネジメントをおこない、年間を通してアクティブラーニング、グループワークをおこなうためのポイントや留意点などの指導をおこなっている。

✓ファシリテーション能力を向上させるプログラムを実施している (はじめに)

✓ふだんからアクティブラーニングをおこなっているから、前述のウォームアップ、立ってグループワーク、発表や質疑などが自然にできるのである。アクティブラーニングに対する生徒の身体化が見事に促されていた。

(*) 溝上慎一 (2018). アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性 (学びと成長の講話シリーズ 1) 東信堂

・ アクティブラーニング、グループワークに関する授業デザインや生徒の身体化に関して十分に取組まれているのがよく見て取れたので、当日は学習内容に関するコメントを 1 つ入れた。グループがアイデアを構造化していく際の「カテゴリー水準」についてである。

写真ではわかりにくいですが、生徒は KJ 法のような形で、似たアイデアをまとめていき、まとまりにカテゴリー名を付けた (図表 1 6)。すると、たとえばあるグループでは「サッカー」「まるちゃん」「海」を同じ水準で並列的に並べることになってしまった。サッカーを「スポーツ」、海を「資源」などと、上位概念を見いだせるようになると、静岡市の具体的な魅力が世の中の一般的なカテゴリーに位置づけて理解されることになる。このような学習まで発展的におこなえると、これは他の理科や社会、数学などの主要教科の学習とも大いに関連してくる。ちなみに、別の班では「場所」「環境」「イベント」「食べ物」・・・とまとめていた。これはとても良いですね、とコメントした。

(AL 関連の実践) ファシリテーション能力を活かしたアクティブラーニング (2019年1月23日掲載 更新なし)



図表 16 グループのまとめ

プロフィール



- ・ 曲田雄三 (きょくた ゆうぞう) @静岡市立清水桜が丘高等学校 (商業科)
- ・ 一言: アクティブラーニングにおける授業改革の中で、生徒の成長はもちろんだが私自身が教師としての幅を広げることにつながられたことがとても幸せなことだと感謝している。これからも多くの先生方の実践を参考にさせていただきながら授業方法について研究をすすめていきたいと思う。